



## 2024年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年8月9日

上場会社名 株式会社エスユーエス 上場取引所 東  
 コード番号 6554 URL https://www.sus-g.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 公男  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼最高財務責任者 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年9月期第3四半期の連結業績(2023年10月1日~2024年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第3四半期	9,584	13.0	575	10.7	605	12.9	436	27.8
2023年9月期第3四半期	8,483	9.8	519	3.6	536	△1.6	342	148.0

(注) 包括利益 2024年9月期第3四半期 431百万円(26.1%) 2023年9月期第3四半期 342百万円(253.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第3四半期	48.92	47.92
2023年9月期第3四半期	38.42	37.16

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第3四半期	6,044	3,480	57.3
2023年9月期	5,008	3,311	65.6

(参考) 自己資本 2024年9月期第3四半期 3,461百万円 2023年9月期 3,286百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	25.00	25.00
2024年9月期	—	0.00	—		
2024年9月期(予想)				25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年9月期の連結業績予想(2023年10月1日~2024年9月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,900	12.2	800	31.7	831	33.3	548	18.7	62.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期3Q	9,037,600株	2023年9月期	9,020,800株
② 期末自己株式数	2024年9月期3Q	138,584株	2023年9月期	100,184株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期3Q	8,932,983株	2023年9月期3Q	8,903,105株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アフターコロナにおいて景気が緩やかに回復しているものの、円安の進行やウクライナ・イスラエル情勢などの地政学リスクの高まり等による原油価格や原材料価格の高騰、インフレに対する金融引き締め等による景気の下振れリスクもあり、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社のソリューション事業においては派遣業務の受注が増加しました。さらに、コンサルティング事業、AR/VR事業においても売上高が増加し、当社グループ全体の売上高は増加しました。ソリューション事業及びコンサルティング事業においてセグメント利益が減少した一方で、AR/VR事業ではセグメント利益が大きく増加したことにより、グループ全体の営業利益は増加しました。営業外損益では、AR/VR専門家育成プログラムを用いた研修に対する人材開発支援助成金の受給等により助成金収入が増加しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高9,584百万円（対前年同期比13.0%増）、営業利益575百万円（対前年同期比10.7%増）、経常利益605百万円（対前年同期比12.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益436百万円（対前年同期比27.8%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① ソリューション事業

派遣業務は、主要取引先である国内製造業及びIT関連企業におきまして、慢性的な技術者不足の状況は変わらず、技術者需要が堅調に推移しました。このような状況の中、継続的にエンジニアの教育等による高付加価値化に取り組み、派遣単価が前年同期比4.2%の増加となりました。さらに、継続的なIT分野の強化に取り組み、IT分野の売上高及び売上構成比がともに増加しました。エンジニア数につきましては、採用を強化したこと等により、在籍エンジニア数、稼働人数ともに増加しました。また、新卒エンジニアにつきましては、前年を大きく上回る297人が入社し、稼働状況が前年同期を上回る水準で推移しております。

請負業務は、IT請負においては前年同期に大型案件があったため、売上高は減少しました。製造請負においては半導体関連顧客で発生した部品供給不足等により売上高は減少しましたが、当第3四半期連結会計期間では増収に転じ、底打ちの兆しがみられております。

利益面においては、利益率の高い請負業務の売上高、売上総利益が減少したことに加え、2023年8月に移転した東京オフィスの賃借料及び減価償却費の増加を中心に販売費及び一般管理費が増加しました。東京オフィス関連の費用はブランディング施策の一環としての先行投資として捉えており、今後は利益率の改善に取り組んでまいります。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は8,507百万円（対前年同期比10.7%増）、セグメント利益は482百万円（対前年同期比3.5%減）となり、2024年6月末時点の在籍エンジニア数は1,974人、当第3四半期連結累計期間の平均稼働率は93.0%となりました。

#### ② コンサルティング事業

ITコンサルティングサービス市場は、SAPをはじめとした既存の大規模基幹システムにおいてIT基盤の統合・再構築に関連する需要が高まっており、当社が携わるクラウド系基幹システムであるSAP S/4 HANA及びSAP以外のERPの導入案件が増加傾向となりました。このような市場のニーズに対応するため、自社ITコンサルタントに加えて協力会社の外注要員を活用し、各モジュール別チームの体制及び開発チームの体制を整えました。さらに、需要が高い首都圏においては、より上位工程であるコンサルティング領域の案件へリソースを集中し、売上拡大に努めてまいりました。一方で、導入案件における外注費の単価高騰及び人員増加等により、利益率が低下しました。その結果、ITコンサルティングは前年同期比で増収減益となりました。引き続き自社ITコンサルタントの人材確保及び育成に取り組み、今後の収益性向上に努めてまいります。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は715百万円（対前年同期比24.5%増）、セグメント利益は68百万円（対前年同期比20.5%減）となりました。

## ③ AR/VR事業

AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、MR（複合現実）、メタバース、AI（人工知能）等の最先端IT市場におきましては、多種多様な商品及びサービスが需給ともに増加しており、その成長性が期待されております。デバイスの進歩・発展や市場拡大の中、大型展示会への出展やニュースリリース、提案型の企画営業、ダイレクトメール配信等の発信型の営業活動を組み合わせて行うことにより、特にAR、VR、MRにニーズを持つ企業様からの引き合いが増加しております。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き産業向けのAR/VRコンテンツ開発、教育機関向けのメタバースを活用した教育システムの開発、AIを活用した業務効率化システムの開発、360° VRツアー等を受注いたしました。特に、大手メーカー等の既存派遣先で最先端技術活用に積極的な顧客が増加しており、大型案件の受注が増加したことで売上高が好調に推移しました。案件数の積み上げを通じて最先端技術のノウハウが蓄積され、高難易度案件を含めて開発効率が改善したことによって、収益性も向上いたしました。また、子会社である株式会社クロスリアリティが提供するAR/VR専門家育成プログラムにおいては、厚生労働省の専門実践教育訓練給付金や人材開発支援助成金を活用した受講が可能となっており、本プログラムの利用により当社のエンジニア教育に貢献したことに加え、外部受講生も増加しました。これらにより、利益面においても、第2四半期連結累計期間に引き続き黒字となりました。

これらの結果、AR/VR事業の売上高は306百万円（対前年同期比84.4%増）、セグメント利益は39百万円（前年同期は58百万円の損失）となりました。

## ④ その他

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労移行支援事業において就職決定による一時的な利用者の減少等により、前年同期比で減少しました。再生医療導入支援事業を行うプライムロード株式会社は、再生医療コンサルティングサービスの売上高が前年同期と同水準で推移しました。

これらの結果、売上高は54百万円（対前年同期比5.6%減）、セグメント損失は15百万円（前年同期は8百万円の損失）となりました。

## (2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

## ① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は6,044百万円となり、前連結会計年度末より1,035百万円の増加となりました。流動資産合計は5,159百万円となり、前連結会計年度末より926百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金が705百万円増加、売掛金が177百万円増加したことによるものであります。固定資産合計は884百万円となり、前連結会計年度末より109百万円の増加となりました。これは主に繰延税金資産を含む投資その他の資産が123百万円増加したことによるものであります。

## ② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は2,564百万円となり、前連結会計年度末より866百万円の増加となりました。流動負債合計は2,534百万円となり、前連結会計年度末より868百万円の増加となりました。これは主に賞与引当金が357百万円減少した一方、未払費用が802百万円増加、未払法人税等が219百万円増加、未払金が159百万円増加したことによるものであります。固定負債合計は前連結会計年度末とほぼ同額の29百万円となりました。

## ③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は3,480百万円となり、前連結会計年度末より168百万円の増加となりました。これは主に剰余金の配当223百万円を行い、自己株式の取得及び処分により26百万円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益436百万円を計上したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の連結業績予想につきましては、2023年11月14日に公表いたしました予想値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,615	3,320
売掛金	1,516	1,693
仕掛品	6	45
その他	95	100
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	4,233	5,159
固定資産		
有形固定資産	354	316
無形固定資産	74	99
投資その他の資産	345	469
固定資産合計	775	884
資産合計	5,008	6,044
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	932	1,092
未払法人税等	37	256
未払費用	102	904
賞与引当金	357	-
その他	235	280
流動負債合計	1,666	2,534
固定負債		
資産除去債務	23	23
その他	7	6
固定負債合計	31	29
負債合計	1,697	2,564
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	435	436
資本剰余金	531	517
利益剰余金	2,403	2,617
自己株式	△83	△109
株主資本合計	3,286	3,461
非支配株主持分	24	19
純資産合計	3,311	3,480
負債純資産合計	5,008	6,044

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
売上高	8,483	9,584
売上原価	6,283	7,158
売上総利益	2,199	2,426
販売費及び一般管理費	1,679	1,851
営業利益	519	575
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
助成金収入	10	35
その他	7	1
営業外収益合計	18	36
営業外費用		
支払利息	0	0
寄付金	-	5
その他	0	0
営業外費用合計	1	6
経常利益	536	605
税金等調整前四半期純利益	536	605
法人税、住民税及び事業税	312	327
法人税等還付税額	-	△29
法人税等調整額	△118	△123
法人税等合計	194	174
四半期純利益	342	431
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益	342	436

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	342	431
四半期包括利益	342	431
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	342	436
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△5

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,684	574	166	8,425	57	8,483
計	7,684	574	166	8,425	57	8,483
セグメント利益又は損失(△)	500	86	△58	528	△8	519

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,507	715	306	9,529	54	9,584
計	8,507	715	306	9,529	54	9,584
セグメント利益又は損失(△)	482	68	39	590	△15	575

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	34百万円	68百万円